

森林やまがた

No.201

2022.9



美しい森林づくり推進国民運動

山形県森林協会は、「美しい森林づくり推進国民運動」を推進しています。



目次

令和4年度山形県森林・林業功労者について……………2	
「林地開発許可制度」について	
～無秩序な開発から森林の働きを守るために～…3	
令和4年度第1回山形県森林管理推進協議会	
森林経営管理制度研修会を開催……………4	
令和4年度山形県森林管理推進協議会	
第1回村山・庄内地域協議会を開催……………5	
山形県林工連携コンソーシアムの取組み……………6	
高性能林業機械普及の取組みについて……………6	
第6回「山の日」全国大会やまがた2022を開催……………7	
国有林から	
鉄鋼スラグを活用した林道新設工事……………8	
みどりのページ	
蔵王坊平サマージャンボリーを開催しました……9	
令和4年度森林・山村多面的機能発揮	
対策交付金について……………10	
森林整備による公益的機能の増進と	
カーボンニュートラルへの貢献について……11	

森の人	
古瀬 健さん 高倉 智さん……………12	
普及情報	
森林作業道作設技術者養成研修と路網作設	
高度技能者育成研修の開催について……………13	
フォレスト通信 農林大学校林業経営学科から	
農大市場・オープンキャンパス・卒業研究の紹介…14	
素材生産作業システム効率化研修会	
～素材生産を担う人材の育成～……………15	
集まれ！ 未来の森の達人たち	
「令和4年度森の案内人養成講座」開催……………16	
最上地域における	
「森林計画及び経営計画作成研修」について……17	
三沢県営林における森林施業について……………18	
眺海の森 森の案内人養成研修を実施しました……19	
山形県の古木名木	
木友のミズキ(舟形町)……………20	
やまがたの木造施設	
シェルター インクルーシブプレイス	
コパル(山形市)……………20	

(表紙写真：シェルター インクルーシブプレイス コパル (山形市))

山形県森林・林業功労者について

◆はじめに

6月4日(土)に山形県金山町で開催された「やまがた森の感謝祭2022」において、吉村知事から森林・林業功労者に感謝状が贈呈されました。



山形県森林・林業功労者については、毎年度、森林・林業の振興及び緑化推進等に顕著な功績があった個人や団体を対象に、

一 「森林づくり」部門

二 「森林保護保全」部門

三 「山村・林業の振興」部門

四 「木材・林産の振興」部門

五 「緑化の推進」部門

六 「県民参加の森づくり」部門

の六部門の中から選出して表彰しているものです。

今年度は、一個人、一団体が受賞しましたので、その功績について紹介します。

◆「木材・林産の振興」部門

長南 伸一 氏

平成22年に設立された「協同組合 やまがたの木乾燥センター」の事務局長を務められ、設立にあたっては、地域内の素材生産事業体、木材・製材事業者の調整に尽力。その後の安定的な運営にも力を注ぎ、木材産業の振興、発展並びに、高品質な製材品の需給円滑化のために大いに貢献されました。

また、林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部の労働安全衛生

指導員として、林業現場での安全衛生教育に携わるなど、労働災害防止のための安全な作業技術向上を通して林業労働者の育成にも積極的にも取り組みなど、県の林業振興に大きく貢献されています。



◆「県民参加の森づくり」部門

特定非営利活動法人

山と川の学校

最上町大堀地区公民館を拠点に、地区住民を対象とした子育てや福祉の充実並びに生涯学習の場の提供を目的として活動を開始。

町内の民有林において下刈り、枝打ち、支障木の伐倒、キノコの植菌、

ツリーハウスや木製遊具の制作、野外炊飯体験、支障木の炭焼き体験等、森づくり活動を通して森林環境教育を実践。



また、火打岳の登山口に四阿を設置・運営を行い、登山者への休憩場所及び森林環境学習の場を提供するなど、活動を通して地域の活性化や交流促進に貢献されています。

◆おわりに

長南伸一様、山と川の学校の皆様、誠にありがとうございます。今後のますますのご活躍をご期待申し上げます。

〔県森林ノミクス推進課〕

無秩序な開発から森林の働きを守るために 「林地開発許可制度」について

◆林地開発許可制度の趣旨

森林には、土砂の流出や崩壊、水害などの様々な災害を防ぎ、私たちの生活環境を守る働きがあります。

大切な森林の働きを無秩序な開発から守るため、一定の規模以上の開発を行う場合は、都道府県知事に申請をして許可を得なければならず、これが「林地開発許可制度」です。

◆対象となる森林

林地開発許可制度の対象となる森林は、保安林や保安施設地区又は海岸保全区域を除いて、知事が策定した地域森林計画の対象となる森林です。簡潔にいうと国有林や保安林でなければ、ほとんどの森林（私有林）が林地開発許可制度の対象です。

開発しようとする森林が地域森林計画の対象であるかどうかは、最寄りの総合支庁森林整備課又は市町村役場で確認することができます。

◆対象となる開発行為

前述の対象となる森林において、

1ヘクタールを超える面積を開発しようとする場合は許可が必要です。

開発行為の定義については、「土石又は樹根の採掘、開墾その他の土地の形質の変更」とされており、具体の開発事例として、砂利や岩石の採取、宅地の造成、工場の設置や太陽光発電施設用地の造成などが該当します。このほか幅員が3メートルを超え、かつ総面積が1ヘクタールを超える道路の造成も該当します。

また、複数の開発行為者が共同で開発する場合や複数年にわたり開発する場合に、個別では1ヘクタール以下であっても、全体で1ヘクタールを超える開発計画であれば事前に許可が必要となります。なお、1ヘクタール以下の森林を開発する場合は、市町村長への「伐採及び伐採後の造林の届出」の提出が必要となります。

◆許可の基準

許可の審査に当たっては、森林の働きが損なわれないように次の4つの許可基準が設けられています。

1 「災害の防止」周辺地域において土砂の流出又は崩壊その他の災害を発生させるおそれがないこと

2 「水害の防止」下流域に水害を発生させるおそれがないこと

3 「水の確保」周辺地域の水質や水量などに影響を与え、水の確保に著しい支障を及ぼすおそれがないこと

4 「環境の保全」周辺地域の環境や景観を著しく悪化させるおそれがないこと

これらに基づき、切土や盛土の適切な工法、えん堤や排水施設、洪水調節池などの必要な施設の設置、事業区域内の森林率など具体的な技術基準が定められており、許可を受けるためには許可基準を満たす計画でなくてはなりません。

◆違反行為と罰則

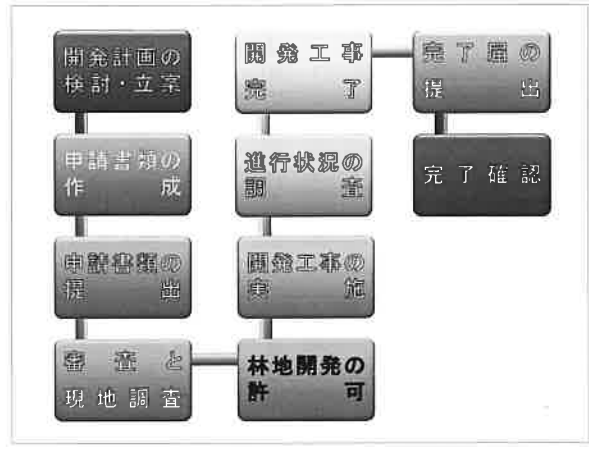
無許可で1ヘクタールを超える開発や不正な手段で開発を行うといった違反行為があった場合は、森林法に基づき監督処分を受けることがあります。また、悪質な違反行為については、刑罰（3年以下の懲役又は300万以下の罰金）に処されることもあります。

◆許可申請の手続き

開発許可の申請に当たっては、各基準の詳細な項目をあらかじめ確認し、申請に必要な書類を整えて、総合支庁森林整備課に申請書類を提出することになります。林地開発許可を受けるためには前述の許可の基準を満たす必要があるため、森林を開発する計画がある場合は、まず最寄りの総合支庁森林整備課にご相談ください。

また、申請の方法や様式等は県森林ノミクス推進課のホームページに「林地開発許可の手引き」を掲載していますので、ご活用ください。

〔県森林ノミクス推進課〕



令和4年度 第1回山形県森林管理推進協議会 森林経営管理制度研修会を開催

◆はじめに

令和4年度の第1回山形県森林管理推進協議会（以下、協議会）は、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、オンライン形式にて6月15日に開催しました。

また、協議会に引き続き、森林経営管理制度研修会（以下、研修会）を併せて開催しました。

◆山形県森林管理推進協議会

今回の協議会には44の市町村・関係団体から57名が出席しました。

最初に、森林ノミクス推進課より、令和3年度における各市町村の森林経営管理制度への取組み状況と、令和4年度における計画について説明がありました。令和3年度末では、全ての市町村で意向調査の事前準備まで終わっており、令和4年度では、23の市町村で意向調査が実施される見込みであることが報告されました。また、県としては、第4次農林水産業元気創造戦略のプロジェクトの目標値を踏まえ、令和4年度に、全ての市町村がモデル地区等において意

向調査を実施することを目標に、サポートをしていくとの説明がありました。

続いて、森林経営管理制度に関する県の取組みについては、昨年度に引き続き、（公財）やまがた森林と緑の推進機構にサポート業務を委託し、林業の専門技術を有する職員が、2名体制で県内市町村を巡回指導するとともに、サポート業務で蓄積したノウハウを事例集として配布し、情報の共有を図っていくことや、協



オンライン形式による森林管理推進協議会

議会、地域協議会及び研修会を開催し、情報共有と意見交換を行っていくとの説明がありました。

次に、航空レーザ測量の実施について、令和4年度から5年間、「森林資源デジタル化推進事業」として、県と市町村、国が共同で財源を負担し、県が計測業務を一括発注する形で、実施する計画であることが報告されました。また、計測の次年度にデータの解析も共同で一括発注する予定であるとの説明がありました。さらに、来年度以降の共同実施について、今後の希望調査により調整を行っていくため、積極的に実施を検討していただきたいとの説明がありました。

最後に、森林環境譲与税について、令和6年度から森林環境税の課税が始まることから、市町村において、森林経営管理制度や森林整備など、森林環境譲与税を活用した取組みの成果を示していくようお願いする旨の説明がありました。

◆森林経営管理制度研修会

研修会には、58の市町村・関係団体から97名が参加しました。特に林業事業体から多くの参加があり、リモートセンシング技術やドローンの活用にも、大きな関心が寄せられてい

ることがうかがわれます。

最初に、株式会社パスコ東北事業部の高岸 且氏から、「航空レーザ測量データを用いた森林経営管理手法について」と題し、県が実施した真室川県有林を対象として、航空レーザ計測及び解析結果の事例を紹介していたいただきました。解析によって得られた森林資源や微地形の情報は、森林簿・森林計画図の精度向上のほか、森林資源の可視化による森林経営管理制度への活用、森林経営計画や路網計画の作成など、多岐にわたる活用が見込まれます。

次に、公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構の佐藤弘行氏から、「ドローンを活用した森林調査について」と題し、ドローンによる写真撮影とソフトウェアを活用した、森林資源の情報収集についてお話をいただきました。多くの時間と労力が必要な森林の毎木調査を、ドローンの活用でどれほど省力化できるか、ドローンによる解析は毎木調査に比較して、どれほど正確なのかなどを検証した、非常に興味深い講義でした。今後の市町村及び事業体における、効率的、効果的な活用が期待されます。

〔県森林管理推進協議会〕

令和4年度山形県森林管理推進協議会 第1回村山・庄内地域協議会を開催

◆はじめに

地域における森林経営管理制度の課題等を解決するため、各地域協議会が開催されています。

今回は、村山地域及び庄内地域で開催された地域協議会の内容を報告します。

◆村山地域協議会

6月28日に村山総合支庁において、管内市町、森林組合、林業団体とオプザバーとして山形森林管理署が出席して開催されました。

今回は協議に先立ち、スマート林業の進め方に関する研修とレーザ計測データの活用事例の紹介が行われました。

最初の研修では、一般社団法人日本林業技術協会の大萱直花氏から、「〔スマート林業〕 森林境界明確化のポイント」と題して行われました。森林経営管理制度における森林整備のネックになっている森林境界明確化について、森林境界明確化は森林施業のために森林の境界を明らかにすることであり、土地の境界確定で

はないことを強調されました。また、

森林境界を推定する手がかりとしてリモートセンシングの技術は有効であるが、境界明確化を進める側への森林所有者の信頼感がない限り、どんな技術を導入してもうまくいかないと述べられ、自身で体験した全国各地での失敗事例、成功事例について興味深い話をされました。

続いての事例紹介では、株式会社ビーシシステム東京営業所長の石上一也氏から、「点群データをフル活用」レーザ計測データの活用事例の紹介」として、航空レーザ測量やドローンで取得したデータの活用ソフトウェアについて説明がありました。

引き続き協議会が開催され、事前に市町から提出された課題・質問・意見等について、県と市町の間で意見交換と情報の共有が行われました。多くの市町で問題となっている技術職員の不足について、林政アドバイザーを雇用して対応している自治体から雇用の状況が説明されました。

また、森林クラウドの運用、経営に適さない森林の判断などについても情報交換を行ない、地域協議会を終了しました。



村山地域協議会の様子

◆庄内地域協議会

8月9日に開催を予定していた庄内地域協議会は、新型コロナウイルス感染症の感染者が連日1,000人を超えるなど急速な感染拡大の状況を考慮し、急遽書面での開催となり、出席予定者に協議会資料が送付されました。

はじめに、森林経営管理制度・森林環境譲与税等に係る今年度の取組状況について、各市町の7月末時点の状況を整理し、共有しました。

次に、国・県・市町村が連携した航空レーザ測量の共同実施については、5月から庄内4市町と真室川町においてレーザ計測作業を進めており、7月末時点で約8割の計測作業が完了しています。完了したところから順次、3次元計測データ作成等の各種データの作成に入っており、予定どおり令和5年1月末の業務完了を見込んでいます。

来年度のデータ解析の共同実施については、酒田市からの質問にも答える形で、意向調査等が必要と考えられる基本的な項目は実施予定であることや、その解析項目について詳しく説明しています。

なお、資料についての質問・意見等がある場合は、書面で総合支庁に提出、後日回答を取りまとめ関係者間で情報共有されることになりました。

協議会は書面開催となりましたが、庄内各市町では、航空レーザ測量の進捗状況などについて必要な情報が得られたのではないかと考えられます。

〔県森林管理推進協議会〕

山形県林工連携コンソーシアムの取組み

◆はじめに

山形県林工連携コンソーシアムは、林業、木材産業、工業、建築関係事業者及び研究機関等が相互に連携し、森林資源を起点とした新技術や製品開発を推進することにより、新たな木材需要を喚起し雇用の創出を図ることを目的に活動しています。

今年度は、県内外の先進地や最先端研究機関の協力を得て、森林資源の新たな利活用に向けた新製品・技術開発などの具体的な成果につなげていく取組みを実施します。

◆令和4年度総会・研修会

7月8日に令和4年度総会・研修会を開催しました。総会では、令和4年度の事業計画等が承認されました。



【研修会の様子】

研修会では(国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所新素材研究

拠点長 山田竜彦氏から「地域森林資源を活用する最先端素材『改質リグニン』のポテンシャル」と題して御講演いただきました。改質リグニンはスギの木屑等と化粧品等の成分として使われるポリエチレングリコールを加熱攪拌することで製造され、プラスチックなどに代わる強固で高性能(耐熱性・加工性)な新素材として開発されました。実際に自動車の外装部材や電子基板、コンクリート用化学混和剤(減水剤)、3Dプリンターの基材など様々な活用方法が試験研究されており、その市場価値は一〇〇億円を超えると予想されています。

今後、製材所等で発生する未利用の木屑等を活用することにより木材に付加価値をつけ、県内の森林資源の新たな活用方法として期待されます。

◆今後の予定

今後は、スマート林業研修会やこれまでの取組みや新技術・新製品に関する情報共有を目的とした情報交換会を開催する予定です。

〔県森林ノミクス推進課〕

高性能林業機械普及の取組みについて

◆はじめに

県では、低コストで効率的な森林整備・木材生産を推進するため、高性能林業機械(以下、機械)の導入等に対する支援に取組んでいます。今回はその内容についてご紹介いたします。

◆補助事業のご紹介

1 機械の購入を検討している事業者の方へ

1つ目は、山形県林業・木材産業成長産業化促進対策事業及び山形県合板・製材・集材生産性向上・品目転換促進対策事業のご紹介です。当事業は、機械の新規購入にあたり、最大で購入費用の4分の1から2分の1の額を補助するものです。今年度は、2つの事業を合わせて、7事業体に対し、計7台分の機械購入補助を行う予定となっています。

◆おわりに

機械の導入には、大きな負担が伴います。県では、事業者のステージに合わせて、支援をしておりますので、導入検討の際には、お近くの「県総合支庁森林整備課」にお気軽にお問合せください。

〔県森林ノミクス推進課〕

2 既に導入している機械のヘッド更新を検討している事業者の方へ
2つ目は、山形県高性能林業機械ヘッド更新支援事業のご紹介です。当事業は、今年度からスタートし

第6回「山の日」全国大会 やまがた2022を開催

◆はじめに

「山の日」全国大会とは、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」という国民の祝日「山の日」の趣旨の浸透や山に関する様々な課題、山の未来のあり方を考える機会とするため、毎年8月11日に行われている全国イベントです。6回目となる山形大会が、8月10、11日蔵王を主会場に、北海道・東北地域では初めて開催されました。

◆山形大会について

10日は、蔵王山周辺で記念登山を行い、約100名の県内外の参加者が自然観察堪能コース、自然環境保全コースに分かれ地蔵岳、熊野岳を巡りました。登山中、登山ガイドから高山植物の説明もあり、蔵王の大自然を体感していただきました。また、自然環境保全コースでは、樹氷を形成するオオシラビソ（別名アオモリトドマツ）の再生に向けた取り組みを見学していただきました。

11日は、やまぎん県民ホールを会場に記念式典・トークイベントを開催し、県内外から約800名の参加をいただきました。式典では、主催者を

代表し吉村知事より挨拶、佐藤山形市長、横戸上山市長より歓迎の言葉がありました。来賓として、環境副大臣、林野庁次長より挨拶をいただきました。メインアトラクションでは、山の日アンバサダーで俳優の小林綾子さんを案内役に、県内各地域で山々を守り続ける人々の活動を紹介しました。また、樹氷再生の学習に取り組み山形市立蔵王第三小学校・蔵王第二中学校の児童・生徒や蔵王の魅力を探究する県立山形中央高等学校の生徒による活動内容の発表がありました。最後に、山形県から大会のシンボル「山の日帽」を、次期開催県の沖縄県に引継ぎ大会を締めくくりました。

式典終了後のトークイベントでは、小林綾子さん、飯澤政人さん（登山ガイド）、かほさん（山の日アンバサダー・登山ユーチューバー）から山の魅力や山の楽しみ方などの紹介がありました。

◆おわりに

県では、これまで以上に多くの皆様が本県の山々に親しんでいただけるよう、山々の魅力や豊かな自然を今後とも広く発信し、更なる山岳観光振興、地域経済の活性化につなげてまいります。

〔山形県みどり自然課〕

PELLET
Watarai

地域の暮らしをしっかりとバックアップ!!
総合電設業、木質燃料製造販売、一般廃棄物・産業廃棄物リサイクル事業



詳しくは
こちらから



代表取締役社長 **後平 順二**
(株)渡会電気土木

本社：山形県鶴岡市下山添字一里塚36
☎0235-57-2454(代) FAX 0235-57-2345
田代工場：鶴岡市田代字広瀬16-2
☎0235-57-4778(代) FAX 0235-57-4786
庄内工場：東田川郡庄内町狩川字砂山外6-4

パスコは、森林・林業の課題を先端ICT技術で解決します！

航空レーザ計測

地形・樹高・樹冠を3次元計測し
計画立案、森林管理を支援

森林クラウドシステム

簡単便利なサービス
効率的な情報共有を支援

森林資源解析 (AI解析)

樹種判別・森林資源量における
現地確認を省力化

PASCO
Surveying the Earth to Create the Future

株式会社パスコ 山形支店

〒990-0039 山形県山形市香澄町一丁目19番5号
Tel : 023-624-7271 www.pasco.co.jp



国営林から

鉄鋼スラグを活用した林道新設工事

◆はじめに◆

山形森林管理署最上支署は、山形県最上地方の約10万haの国有林と、林業専用道135路線を管理しています。

最上地域は大規模製材工場や木質バイオマス発電施設及び木質バイオマスボイラーによる熱供給設備等の施設があり、建築用材や木質バイオマス利用の増加による、木材の需要が高まっています。

それに伴い、大型の木材運搬トラックによる木材の輸送を安全かつ円滑に行うことが必要となっています。

◆林業専用道の必要性◆

森林の施業においては、造林（植栽）、保育、伐採等を効率的に実施し、出材された木材等については市場に効率的に輸送するため、幹線、支線、分線の役割を踏まえた林業専用道と、森林作業道の路網を効果的に組み合わせることで、施業を行う事が重要となります。

しかしながら、近年多発する集中豪雨等によって、被災する林業専用道が増加し、これまでもまして被災しにくい林業専用道等の整備が必

要となつています。このよ

うな状況を踏まえ、昨年度鉄鋼スラグ（簡易舗装）を活用した林業専用道新設工事を実施いたしました。

◆現地検討会の開催◆

令和3年10月5日には、管内の森林土木に携わる技術者の鉄鋼スラグに対する知識・技術の向上を図る事を目的として現地検討会を開催いたしました。

鉄鋼スラグとは、製鉄する時に一緒に生まれてくる副産物のことです。現在、林業専用道新設工事を施工



検討会の様子

する際は、砕石を路盤材として使用して施工しますが、今回、山形県で初となる鉄鋼スラグを使用し施工しました。

メリットは、①鉄鋼スラグ箇所は雑草が生えないため除草コストを削減できる。②散水して転圧するだけで施工が容易。③洗掘等の影響が少ないため修繕経費を軽減できる。④硬くて摩擦に強く車両の通行に適している。

デメリットは、①最寄りの港からの輸送となるため経費がかかり増しとなる。②他県から船で運んでくる事から、一定程度のまとまった数量の見込みが必要となる。などが考えられます。

施工手順については、①鉄鋼スラグの敷き均し②散水③転圧④養生（転圧から約1週間程度）で完成となります。

今後、木材運搬トラックが走行することによる路体の状況や、降雨時による洗掘状況を確認していくこととしていきます。

※東北森林管理局では木材の大量輸送や災害時の代替路機能に対応できるように、路網の強靱化・長寿命化に取り組むとともに、簡易な資材による低コスト施工の技術の確立に取り組む事としております。

〔山形森林管理署最上支署〕



敷き均し後の散水



ローラーによる転圧



みどりのページ

蔵王坊平
サマージャンボリーを
開催しました

◆期日 令和4年8月3日(水)

◆会場

上山市 蔵王ライザワールド

◆主催

第13回山形県緑の少年団交流研修
大会実行委員会(山形県、村山地域
林業振興協議会、最上地域林業振興
協議会、置賜林業推進協議会、庄内
地方林業振興協議会、上山市緑の少
年団運営協議会、公益財団法人やま
がた森林と緑の推進機構、山形県緑
の少年団連盟)

◆後援

第6回「山の日」全国大会実行委員会

やまがた2022

◆参加者 県内の少年団員72名

◆実施状況

新型コロナウイルスの影響により
3年ぶりとなる山形県緑の少年団交
流研修大会(蔵王坊平サマージャン
ボリー)を開催しました。

今回は、第6回「山の日」全国大
会の記念行事として、県内11の少年
団から72名の団員が参加し、上山市
にある蔵王ライザワールドを会場に
活動を行いました。



開会式の様子

晴天であればクアオルトコースで
の森林散策も予定していたのですが、
残念ながら大雨で中止となり、室内
での活動となりました。

はじめに、山形森林管理署の五十
嵐伸哉地域林政調整官から「蔵王ア
オモリトドマツ林の枯損と再生に向
けた取組み」について講義を受けま
した。冒頭、蔵王の樹氷になる木で
あるアオモリトドマツの紹介があり、
木々が枯れてしまっている問題につ
いて勉強しました。原因となったトウ
ヒツヅリヒメハマキ、トドマツノキ
クイムシ、また、被害を受けた箇所
の写真を見たことで、その被害の大
きさと深刻さを感じているようでした。

また、再生に向けた取組みとして、
被害状況のモニタリングや自生苗、
稚樹の移植、種子の採取・播種等を
学びました。この中でも、アオモリ
トドマツの種子採取作業を体験する
時間には、団員が実際に種子採取に
使われる機材に触れて、機材の重さ
や実際に使うときの大変さを肌で実
感しました。



アオモリトドマツの学習

今回の講義を通して、自分の地域
にある緑の実態を知り、また、守つ
ていくためには何ができるのかを考
えるきっかけになりました。
講座後は、カイトづくりのワーク
ショップを行いました。竹ひごを使

ってカイトを組み立て、団員それぞ
れが自分だけのオリジナルになるよ
う絵を描いていきました。
製作中は、飛んだ時にきれいな状
態で絵が見えるよう、たくさんの色を
使いながら、真剣に描いていました。
製作時間が過ぎた後も絵を描き完成
させたいという団員もおり、力作を
作りあげることができたようです。



カイト作りペイント

以上のように、今回は2つのプロ
グラムを実施しました。次回こそは、
晴天の下で活動ができればと思いま
す。
最後になりましたが、大会の運営
に際しご協力いただいた関係者の皆
様に対し、厚くお礼申し上げます
(公財)やまがた森林と緑の推進機構

活動メニュー一覧

	タイプ	交付単価等
メインメニュー	地域環境保全タイプ (里山林景観を維持・保全するための活動)	12万円/ha
	地域環境保全タイプ (侵入竹の伐採・除去、 荒廃竹林の整備活動)	28.5万円/ha
	森林資源利用タイプ (集落周辺の広葉樹等 の伐採、搬出活動等)	12万円/ha
サイドメニュー	森林機能強化タイプ (路網の補修・機能強化等)	800円/m
	関係人口創出・維持タイプ	5万円/年
	活動の実施に必要な機 材及び資材の整備	購入額の 1/2or1/3以内

※単価等は、活動の継続年数等により一部変動します。

森林・山村多面的機能発揮対策交付金は、平成25年度から始まった林野庁の補助事業です。当機構では、やまがた森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会として、活動組織に対する交付金の交付や指導・支援、地方公共団体との連絡調整等を担っています。

このたび、林野庁より今年度事業の交付決定通知がありましたので、交付金の概要紹介とあわせてお知らせします。

本交付金は、地域住民や森林所有者等が協力して行う里山林の保全管理や森林資源の利活用のための活動を支援するものです。活動メニュー

令和4年度森林・山村多面的機能
発揮対策交付金メニュー

今年度は、県内11市町14活動組織から申請があり、下表のとおり採択されました。うち5活動組織が新規の取組み(2期目等を含む)で、昨年度活動のなかった庄内地域からも採択されました。地域の里山整備に関心があり取組んでみたいという方は、お気軽にお問い合わせください。

(「公財」やまがた森林と緑の推進機構)



活動状況 (里山クラブにしやま)

は、上表のとおり定められています。森林整備そのものだけでなく、山村地域の活性化も目的としており、活動組織構成員の件費にも交付金を充てられることや、活動により生産された材から収入を得てもよいことなどが特色です。また、活動にあたって、専門的アドバイザーからの指導や助言を無料で受けることもできます。

令和4年度森林・山村多面的機能発揮対策交付金 活動組織一覧 (R4.6.9交付決定)

	市町村	活動組織名	活動の概要	交付金(千円)
1	西川町	里山クラブにしやま	スギ・雑木の間伐、薪・ほだ木の生産、地域外関係者との交流体験、資機材整備	746.5
2	朝日町	一般社団法人アップランド	林況調査、広葉樹枯損木伐採等	232.5
3	東根市	一般社団法人関山愛林公益会	林況調査、境界立会、倒木処理、雑草木刈払	352.5
4	尾花沢市	細野の山を愛する会	雑草木刈払、枯損木伐採、作業道開設、地域外関係者との交流体験、資機材整備等	1,522.5
5	最上町	東法田元気な村づくり協議会	スギ林間伐、作業道開設、資機材整備	580.0
6	最上町	最上町山の会	林況調査、広葉樹林の雑草木の刈払、作業道開設、資機材整備	522.5
7	高畠町	高畠町二井宿地区山林の景観と恵みを守る会	松林の雑草・灌木刈払い、枯損木等伐採除去	230.0
8	川西町	玉庭地区交流センター四方山館	枯損木の伐採等安全管理	550.0
9	長井市	西根森づくりの会	枯損木の伐採等安全管理、作業路開設	1,604.0
10	白鷹町	浅立森づくりの会	スギ林の雑草木刈払い、枯損木等の除去、過密林の整理伐	816.5
11	白鷹町	畔藤森づくりの会	スギ林の雑草木刈払い、枯損木等の除去、過密林の整理伐	814.0
12	白鷹町	山口里山を楽しむ会	スギ林の雑草・灌木刈払い、過密林の整理伐、スギ林の間伐及び搬出、作業路開設	1,514.0
13	飯豊町	飯豊町中津川の森人会	広葉樹林の下草・灌木刈払い、薪用原木の搬出・加工、地域外関係者との交流体験等	919.5
14	鶴岡市	森の仲間	スギ林・広葉樹林の間伐、広葉樹林の除伐、下草刈り、資機材整備	247.5

緑の募金にご協力いただいた企業・団体のみなさま (R4.6.1~R4.7.31)

(やまがた森林と緑の推進機構取扱い分)

(株)青葉堂印刷、大沢林業(株)、J A山形中央会、小規模特別養護老人ホームみこころの園南山形、(公社)山形県観光物産協会、(一社)山形県測量設計業協会 (敬称略、五十音順)

ご協力ありがとうございました

森林整備による公益的機能の増進と カーボンニュートラルへの貢献とESG

◆はじめに

やまがた森林と緑の推進機構では、これまで県内民有林人工林の約13%にあたる約1万5千6百ヘクタールの森林造成を行ってきました。さらに、森林の適切な維持管理を通して、水源かん養・県土の保全及び環境保全等、森林の持つ公益的機能の高度な発揮により、県民の生活環境の保全を図っています。

また、森林資源の保続培養により、県民生活に必要な木材を安定的に供給して、農山村地域の雇用確保や地域経済に大きく貢献しています。

森林の持つ公益的機能を維持増進するためには、森林を常に健全な状態で管理していくことが重要です。

そこで、当機構が実施している森林整備事業により森林の持つ公益的機能がどのくらい増進しているのか、また、二酸化炭素の吸収増進効果によるカーボンニュートラルへの貢献について考察してみました。

◆公益的機能の評価について

森林の公益的機能である水源かん養・山地保全及び環境保全の効果については具体的にどのようなものか

実感することが難しいため、貨幣価値として試算しました。(下表参照)

試算に要する単価や因子は、林野庁が毎年度更新している「林野公共事業における事業評価参考単価表について」を使用し、当機構が実施した過去5カ年の事業実績を基に行いました。

機能項目は、「洪水防止便益、流域貯水便益、水質浄化便益、土砂崩壊防止便益、炭素固定便益」です。過去5カ年における事業量の平均は約253ヘクタール、それに対する事業費の平均は約2億3千万円で、これにより算出される効果額は「水源かん養便益」を主体に、年間約12億4千万円となり、事業費と便益額を比較した費用対効果は「事業費の約5.3倍」となり、森林の公益的機能が投資額を大きく上回って増進していることが分かりました。

◆カーボンニュートラルへの貢献について

皆さんご存じと思われませんが、カーボンニュートラルとは、二酸化炭素など温室効果ガスの「排出量」と、森林などによる「吸収量」が同じに

なることです。量の単位はtCO₂で表されます。

森林は、太陽の光エネルギーを利用して、大気中の二酸化炭素を吸収し、幹や枝などに大量の炭素として蓄えることができます。

また、森林整備を実施することにより生産された木材は、住宅等で利用されることで、木材中の炭素を長期間にわたって貯蔵することができます。

当機構が令和3年度に実施した間伐事業量218ヘクタールから二酸化炭素吸収量の増進分を換算すると、1,685.32tCO₂でした。この量を例えていうと、令和4年3月に環境省が公表した「令和2年度 家庭部門のCO₂排出実態統計調査結果の概要」による一世帯当たりの年間CO₂排出量が2,881tCO₂と算定されるので、約58世帯分の二酸化炭素排出量を相殺していることとなります。

◆おわりに

今後も適切な森林整備を通して、健全な森林の育成並びに県産木材の生産推進に取り組むとともに、森林の公益的機能の増進、また、「ゼロカーボンやまがた2050」の実現に向け一層貢献してまいります。

引き続き当機構の森林整備事業に

ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

○森林整備事業の費用対効果

単位：千円

項目		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	平均	
費用(C)	間伐事業							
	事業量 (ha)	295	227	302	223	218	253	
	事業費	220,593	227,632	277,234	210,423	227,971	232,771	
効果(B)	水源かん養便益	洪水防止	873,216	649,699	863,421	638,447	624,132	729,783
		流域貯水	78,250	60,166	79,958	59,124	57,798	67,059
		水質浄化	160,004	123,026	277,180	211,478	210,354	196,408
	山地保全便益	土崩防止	2,997	1,383	1,799	1,183	1,157	1,704
	環境保全便益	炭素固定	290,504	223,366	296,843	219,498	214,576	248,957
計		1,404,971	1,057,640	1,519,201	1,129,730	1,108,017	1,243,912	
費用対効果		B/C =	6.37	4.65	5.48	5.37	4.86	5.34

〔(公財)やまがた森林と緑の推進機構〕

森の人紹介

森林施業プランナー

北村山森林組合 事業主任

古瀬 健さん（尾花沢市）



北村山森林組合の事業主任で森林施業プランナーの古瀬健さんを紹介いたします。森林組合に就職してから5年目、森林施業プランナーの認定を受けてから3年目になります。

出身は尾花沢市で、学生時代は、剣道や陸上をしていたスポーツマンです。大学卒業後は、介護施設の経理事務や議員秘書等を経て、北村山森林組合に就職されました。

現在は、国有林の生産事業の現場管理や森林経営計画作成業務、チェーンソーなどの機械修理から苗木の手配までこなす古瀬さんですが、最初の仕事は、コンパス測量の施業地データをデジタル化することだったそうです。

林業とは全く関係がない業種からの転職でしたが、森林GISを使って図面を作ったり、GPSを使って現場を歩くことで、山の事を分かるようになるのが楽しいと話してくれました。林業は体力勝負で多岐に渡る分野を知る必要がありますが、身につくまで時間がかかると言われていますが、「ICT」技術をうまく活用すれば、経験が浅くても熟練者に早く近づくことが出来ると感じているそうです。また、森林所有者に少しでも多くのお金を還元出来た時に喜びを感じるそうです。

近年、後輩職員には、「ICT」技術を利用した現場管理の仕方等々も積極的に指導されているとのこと。古瀬さんの他業種での経験と「ICT」技術の力で、

- ・現場作業の効率アップ
 - ・森林所有者への還元率アップ
 - ・職員のやりがいアップ
 - ・新規就労者数アップ
- により林業が盛り上がることを期待しています！

ちなみに、北村山森林組合では、一緒に働く仲間を募集しています。「ICT」技術で林業を盛り上げてみませんか？

〔村山総合支庁森林整備課〕

森の人紹介

スマート林業の実現

高倉 智さん



さんを紹介します。

▼プロフィール

高倉さんは、新庄市に生まれ、東京で学生時代を過ごし、会社勤めをしていましたが、心機一転、それまでの仕事と全く畑違いの森林組合に就職しました。

きっかけは、東京から帰省する際に、新幹線の車窓から山形の山々を見て、豊かな自然の源となる山の仕事に携わりたいと思ったとのこと。

また、高倉さんの楽しみは、週末の登山や釣り及びマウンテンバイクを組み合わせたキャンプです。中でもキャンプで友人と酌み交わす酒が格別とのこと。

登山しながらの山菜採りや、釣り

上げたキスをYouTubeを見て捌くなど、豊かな自然の中でアウトドアライフを楽しんでいます。

▼仕事

森林組合の実務や緑の雇用による技術研修で研鑽を積み、平成29年には森林施業プランナーの認定を受け、現在は森林整備の現場管理を担当するとともに、初めての森林経営計画作成に取り組んでいます。

現場管理業務では、現場の作業がスムーズに進むように、土場の借り受けや農道の通行許可等の地元との調整及び大型林業機械が通行可能なルートの確認などを行っています。

また、現場担当や森林所有者とコミュニケーションを図るなど、森林整備が円滑に進むよう心がけています。

▼今後の抱負

豊かな自然環境の基盤となる森林を適切に維持するため、人口減少の中で持続可能な林業になるよう、ICT技術を活用して森林施業の省力化と効率化を図るスマート林業に取り組んでいきたいとのこと。

最上地域におけるスマート林業の実現に向けて、更なる活躍を期待しております。

〔最上総合支庁森林整備課〕

森林作業道作設技術者養成研修と路網作設 高度技能者育成研修の開催について

◆はじめに

効率的な素材生産を実現し、林業の生産性を向上させるためには丈夫な森林作業道の作設が必要となっています。当センターでは森林作業道づくりに取り組む技術者を対象として、作業道作設に必要な基礎的知識と施工技術の習得を目的とした「森林作業道作設技術者養成研修」と効率的な路網計画の習得を目的とした「路網作設高度技能者育成研修」を開催したので紹介します。

（植物やその根を含む土と、斜面内

部の締まっている土を交互に置き締め固める工法）を反復練習しました。また、作業道の路線選定や出来形管理に必要な測量方法も学びました。

○参加者の感想

研修の中では、転圧の大切さや伐根の有効活用方法、土の種類に応じた有効活用法等について習得できました。参加者からは「普段の業務では反復練習をする機会がないので貴重な経験だった」「理解できるまで、講師

から丁寧に指導を頂けた」など、好評の声を頂く一方で「段切りや適切な土量配分については、もっと練習したかった。」との声がありました。

◆路網作設高度技能者育成研修

○日時 8月3日

○場所 県民の森学習展示館研修室

○参加者 林業事業体職員3名

○講師

一般社団法人山形森林調査協会

早坂 紘史 氏

○研修内容

はじめに、路網計画と路線選定の基本的な考え方や既存の路網計画手法について講義を行い、その後、レザ測量結果を活用できる路網計画ソフト「スキャンサーベイZ」や、QGISを活用した効率的な路網計画手法の紹介を行いました。

この後、現地踏査を行い、自身が作成した路網計画の現地検証を行う予定でしたが、荒天のため実施できなかつたので、ドローンなどの先進技術を活用した路網計画や森林資源調査法について講義を頂きました。参加者は具体的な費用やメリット、デメリットなどについて活発な意見交換を行いました。

○参加者の感想

当初の予定と異なる研修内容とな

ったものの、参加者からは「森林調査など、日頃相談することができないことを解決できた」との感想を頂きました。その他、「QGISの使用い方など、個々のICT機器の詳しい操作を学びたい」「路網計画に関わる各種要素も包括し、2日以上かけてじっくり研修を受けたい」など、今後の研修に関する要望を頂きました。

◆おわりに

今後も研修で学んだポイントを活かし、林業事業体の皆様が効率的な森林作業道の作設をされることを期待しております。

〔森林研究研修センター〕

- ◆森林作業道作設技術者養成研修
- 日時 6月28日～7月1日
- 場所 森林研究研修センター
- 参加者 林業事業体職員6名
- 講師 株式会社 荒正
工務課長 伊藤 和実 氏
- 研修内容

簡易で丈夫な作業道をつくるには、路体の十分な締固めと適切な排水計画が重要なこと等を学んだ他、路体の安定と盛土のり面の早期緑化が期待できる「表土積みブロック工法」



森林作業道作設技術者養成研修の状況



路網作設高度技能者育成研修の状況

「農大市場・オープンキャンパス・卒業研究の紹介」

◇コロナウイルスの影響が続く中、林業経営学科の学生27名は、感染防止対策を講じながら、講義や実習に励んでいます。今回は、農大市場、

オープンキャンパス、卒業研究の取組について紹介します。

○農大市場

農大市場は、「マーケティング実践」の授業の一環として行ない、農林大生自らで作った農産・林産品を販売しながら、販売手法、接客などについて学びます。年に4回行なう農大市場では、毎回季節毎に各学科が生産する野菜や花、果物が並び大盛況です。

6月30日に開催した第1回農大市場では、林業経営学科からも、木製の花台や伐根椅子、スウェーデントーチなどを出品しました。SNSを見て来店してくれた方が、伐根椅子を購入してくれるなど、売れ行きは良好でした。学生達は「次はもっとスウェーデントーチを作ろう。」と、次回に向けて構想を練っています。

農大市場は、一般の方に森林・林業の魅力について伝える良い機会に

なることから、今後も積極的に出店していきたいと考えています。



農大市場で木工品を品定めするお客さま

○オープンキャンパス

オープンキャンパスは、農林大学校への進学を考えている高校生やその家族などが、学校生活や授業の様子を知る良い機会となっています。

7月16日、30日に行なったオープンキャンパスでは、林業経営学科にも、県内外から林業を志す高校生等が参加してくれました。実習体験では、ミニグラップルを用いた丸太の

移動、チェーンソーでの丸太伐り・枝払いを行いました。参加した高校生は、実習体験を通じ、入校への思いを強くした様子でした。一方、農林大生は高校生に機械の操作方法を教えることで、自らも安全な機械の操作方法について再確認することが出来ました。



オープンキャンパス丸太伐り体験

○卒業研究中間検討会

農林大生は2学年になると各自が設定したテーマに基づき卒業研究を行います。卒業研究は、農林大学校のカリキュラムの中でも大変重要な科目になります。

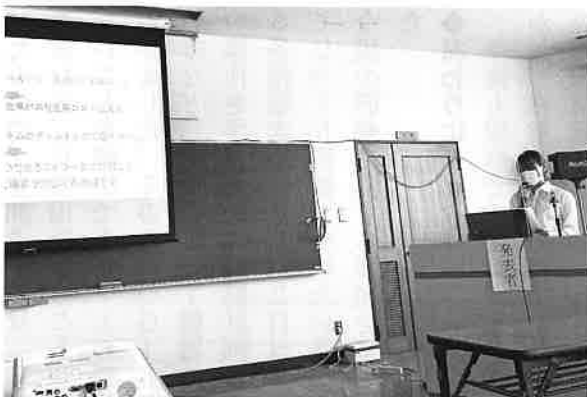
7月7日には卒業研究の中間検討会が行われました。中には初めてパソコンでグラフや表を作り、パワー

ポイントで資料を作成する学生もあり、発表会の準備は前日の夜遅くまで続きました。

当日は1人5分間の短い発表でしたが、各学生は自分の研究テーマについてしっかりと発表することが出来ました。助言者として来ていただいた森林研究研修センターの梅津所長からは、「様々な研究に取り組んでおり感心している。引き続き論文の作成に向けて頑張ってもらいたい。」と激励の言葉をいただきました。

卒業研究は、これから佳境に入り12月の研究発表会、1月の卒業論文作成まで続きます。

〔山形県立農林大学校〕



卒業研究中間検討発表の様子

素材生産を担う人材の育成 素材生産作業システム効率化研修会

はじめに

村山総合支庁管内の林業事業体は高性能林業機械の導入等により素材生産量を拡大してきましたが、今後増加が見込まれる原木需要に応えるため、更なる作業システムの効率化が課題となっています。そこで、素材生産における機械作業の最適化の習得を目的とした研修会を開催しましたので、その概要を紹介します。

◆研修会の概要

研修会は令和4年6月3日に、有限会社小関興業（新庄市）の小関大



小関氏による講義



図上演習



現地での意見交換

祐氏（青年林業士）と中川一誠氏を講師に、村山市樽石地内の現場を研修地として実施しました。村山管内の森林組合と林業事業体から現場技術者や森林施業プランナー合計9名が参加しました。

午前は室内で、小関氏から素材生産作業システムの基本的な考え方や生産性向上の工夫について、講義をいただきました。併せて、研修地の立木情報・林地情報等から机上にて作業計画（作業システム・作業フロー）を作成する図上演習を行いました。

た。午後は研修地に移動し、現場状況を確認しながら、図上演習で作成した作業計画の共有・意見交換を行いました。使用機械の選択や作業道の路線を決める時のポイント等について、具体的な意見交換がなされました。

◆おわりに

参加者からは「同じ現場でも様々な作業システムが考えられることが新鮮だった」「ちよつとした工夫で効率化が進むことが分かった」等の感想をいただきました。今後も、村山総合支庁では地域の実情に即した課題解決を図るため研修会等を開催し「やまがた森林ノミクス」推進に向けた取組みを進めて参ります。

〔村山総合支庁森林整備課〕

“美しい森林の風景を守るために” 森林経営管理をサポートします

- 市町村の森林・林業行政の体制支援
- 資源量調査
- 森林 GIS 等、システム整備
- 森林経営計画作成促進の支援
- 路網整備の助言・指導
- 関係団体とのマッチング
- 森林境界の明確化
- 森林情報の収集及び整備
- 森林サイクルのマネジメント

一般社団法人 **山形森林調査協会**

〒991-0003 山形県寒河江市大字西根字長面153番地の1
TEL.0237-85-8233 FAX.0237-85-8233
E-mail: yfi@kfa.biglobe.ne.jp

生まれ！ 未来の森の達人たち。

「令和4年度森の案内人養成講座」開催

◆はじめに

県民参加の森づくり活動や自然環境教育に対する関心が高まる中、森づくり活動を支援するための案内人の養成が必要になっていきます。

そのため、県内4地区の県民の森で唯一冬期間も含め一年中活動している遊学の森の特徴を生かして、養成講座も春、夏、秋、冬と季節に応じて年4回計画しており、これまで実施した2回の概要を報告します。

◆開催状況

令和4年5月15日(日)及び7月2日(土)に金山町の山形県遊学の森及びその周辺をフィールドとして開催し、「春の講座」は34名、「夏の講座」は17名の参加がありました。

「春の講座」では、『新しい山菜講座(自然観察指導員、白壁洋子講師)』と『安全講座Ⅰ(応急手当指導員、細川秀彦講師)』の2講座を、「夏の講座」では、『自然観察ABC講座(同、白壁洋子講師)』と『森のクラフト講座(森林インストラクター、奥山彰敏講師)』の2講座を開催しました。「春の講座」では、遊学の森周辺

の森林、水辺を散策し、山菜の見つけ方、生態、地域による利用方法の違いなどを学びました。また、野外活動等における安全研修として応急手当の基礎を実演形式で学びました。受講生からは、『花が咲く前のユリを初めて見た。』『球根も食べられるとは知らなかった。』『地域によって利用する山菜が異なることは勉強になった』等の意見がありました。

「夏の講座」では、自然観察のやり方、ネイチャービンゴカードを使った森林散策を行い、その経験を踏まえたオリジナルネイチャービンゴカードを創りました。また、遊学の森の中にある素材を活用したクラフトづくりを学びました。受講生からは、『森林の中を歩くだけでも色々な発見があるが、ビンゴ形式にすることで、面白く、対抗戦形式にしたら盛り上がる。子供たちを対象に今後実践していきたい。』等の声がありました。

◆おわりに

今後、「秋の講座」を11月6日(日)、「冬の講座」を令和5年2月19日

(日)に開催を予定しています。年4回開催のうち、いずれかの2講座以上を受講した方には修了証を交付しており、希望する方は『森の案内人』になることができます。受講者の方には、今後『森の案内人』として、遊学の森をフィールドとして、

森の楽しさなどを参加者に伝えていく活動を期待します。

〔最上総合支庁森林整備課〕



養成講座チラシはこちら



春:安全講座Ⅰ



春:新しい山菜講座



夏:森のクラフト講座



夏:自然観察ABC講座

最上地域における
「森林計画及び経営計画作成研修」
について

◆はじめに

昨年6月、全国の森林の整備や保全の目標・方向性を定める「全国森林計画」が変更されたことに伴い、県が策定する「地域森林計画」、市町村が策定する「市町村森林整備計画」が、昨年末に変更されました。このため、変更点の周知と、適切な森林計画の実施を推進するため、7月27日（水）に最上管内の林業事業者と市町村担当者を対象とした、標記研修を開催したので報告します。

◆研修内容1

森林計画制度の変更等について
 施業を行う林業事業者及び審査のうえ届出を受理する市町村が、森林計画制度の意図と仕組みを理解し、適切に対応することを目的に、次の①～④について説明を行いました。
 ①保安林以外の森林の伐採及び造林（伐採及び伐採後の造林の届出の変更）

②特に効率的な施業が可能な森林の区域（再造林の推進区域）
 ③市町村森林整備計画に合わせた森林経営計画の変更（再造林の推進

区域における、既存の森林経営計画の変更）
 ④人工造林の植栽本数（低密度植栽）

◆研修内容2

森林経営計画作成の注意点について
 森林整備を推進する上で欠かせない森林経営計画について、作成及び認定する各担当者の能力向上を図るため、次の⑤～⑧について説明を行いました。

⑤森林計画制度の概要（森林の区域）
 ⑥森林経営計画の認定要件と実施基準（間伐の下限面積、主伐の上限材積等）

⑦森林経営計画の作成と認定請求（様式と内容、提出期限等）

⑧森林経営計画の実行（計画変更、遵守義務）

◆研修での留意点

今回の研修では、市町村や事業者からの過去の問い合わせ内容や、提出された書類等の中で、不備が多い事項について説明し、より実践的な研修となるよう心掛けました。

◆おわりに

木材需要が高まるなか、森林資源の循環利用を支える取組みは重要です。今後とも、やまがた森林ノミックスの推進につなげてまいります。

〔最上総合支庁森林整備課〕

森林とのかけ橋をめざす 総合アドバイザー

(一財) 日本森林林業振興会 秋田支部
 Japan Forest Foundation AKITA

企業活動を展開しつつ、国から承認された国民参加の森林づくり等活動を支援する法人です

秋田支部 支部長 木村大助

〒010-0001 秋田市中通5-9-49
 TEL 018(832)4040 Fax 018(835)6837

山形出張所 所長 佐藤宏一

〒990-2473 山形市松栄1-5-41
 TEL 023(647)8450 Fax 023(674)0109

製材・木材販売・木材プレカット・建築設計施工



株式会社 アイタ工業

製材部 プレカット部 建築部



全木検
 広葉樹製材
 JLRA-全数-14-03

◆ HP <https://www.aita-kouyouju.com> ◆ E-mail aita2845@ms3.omn.ne.jp

本社 〒992-0022 米沢市花沢町2845 TEL 0238-23-1847(代) FAX 0238-23-1835

プレカット部・建築部 TEL 0238-23-1978 FAX 0238-23-1979

三沢県営林における森林施業について

◆三沢県営林について

三沢県営林は福島県喜多方市に隣接する米沢市南西部に位置し、模範的な林業経営手法の構築を目的に、土地所有者である一般財団法人田沢自彊会と明治43年から分収契約を締結して、これまで造林、立木売却い等を行ってきました。立木売却い等により県財政にも寄与しつつ、県営林の模範的経営拠点として地域林業の振興に貢献し、試験研究機関の試験的施業にも一躍を担い、現在に至っております。

森林面積423haのうち、スギ人工林は218㍍（全体の52%）を占め、県営林としては県内最大の面積を有しております。

◆森林経営計画について

三沢県営林の森林施業については、これまで様々な財源を活用し施業を行ってきましたが、平成29年度からは、充実してきた森林資源を計画的かつ効率的に施業を行うべく、森林経営計画を策定して施業を行っております。現在の計画は2期目に入っており、5カ年間で43haの搬出間伐と、10haの植栽を計画しています。

◆今後について

今年度は主伐、搬出間伐、下刈、再造林を行う予定でしたが、6月に発生した豪雨の影響により、県営林内の林道八谷沢線の橋梁護岸部が流出し、車両での入林が一部不可になるなど、計画の見直しが必要な状況となっております。

今後は、現時点で車両の通行が可能な箇所での施業を行いつつ、林道復旧の際には、模範的な林業経営を継続しつつ、ICT等の先進技術を活用したスマート林業を推進して参ります。

〔置賜総合支庁森林整備課〕



三沢県営林の全景

建設業スーパー任意労災（グループ傷害保険）加入団体



山形建築組合

会長 安孫子 正 樹

事務局 山形市箆田一丁目6番7号（小野建設 株内）

電話（023）645-1818

FAX（023）643-5889

林業労働者のための

振動障害特殊健診を実施します！

- ①【村山地区】 令和4年10月6日(木) 山形森林総合センター
- ②【最上地区】 令和4年10月13日(木) 真室川町中央公民館
- ③【庄内地区】 令和4年10月20日(木) 庄内町狩川公民館
- ④【北村山地区】 令和4年10月28日(金) 村山市農村環境改善センター
- ⑤【置賜地区】 令和4年11月4日(金) (協)米沢総合卸売センター P-PAL

林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部

TEL:023-666-4810 FAX:023-666-4811



眺海の森 森の案内人養成研修を実施しました

◆はじめに

眺海の森（酒田市）には令和4年7月末現在、25名の「森の案内人」が在籍しており、眺海の森の動植物の観察や見どころの案内、自然の素材を使ったクラフトの創作指導等を行っています。この度、「森の案内人」として活躍する人材を育成する「森の案内人養成研修」を実施しましたので、その様子について紹介します。

◆研修実施状況

研修は、眺海の森森林学習展示館を会場とし、第1回を6月12日、第2回を7月10日に行いました。参加人数は第1回が5名、第2回が8名でした。

第1回の午前は「森と親しむく森を知る・伝えるく【自然観察】」として、樹木医で森林インストラクターの五十嵐光雄氏から、樹木や草本、昆虫等の基本的知識に関する事と自然観察での指導方法について講義していただきました。その後、野外において樹種の見分け方や観察のポイント等について学びました。

午後は「森で学ぶく人と森・木の関わりく【木育キットを利用した木工】



樹木の見分け方を学ぶ

として、庄内地域工業技術振興会木工研究会会員の太谷光成氏から、木工体験の意義や材料としてのスギの特長、木材加工の考え方・ポイントについて講義していただきました。その後、庄内における木育キットとしているスツール（椅子）の作成を行い、木工のスキルについて学びました。

本キットはスギの3cm角の角材の組合せとビス止めによる、シンプルなデザインが特徴で、部材の長さを変えれば、ベンチタイプや背もたれ付き等への応用も可能となっております。

第2回の午前は「森とつながるく森は海の恋人く【庄内の山海の幸の簡単調理】」として、庄内浜文化伝



道師リーダーの佐藤憲三氏から、野外活動で使える、地元の食材を活用した調理の方法について教えていただきました。今回のレシピは、「イカの甘味噌ソース蒸し」と呼ばれるもので、庄内浜のイカ、そしてパプリカとアスパラガスとエノキ茸を食べやすい大きさに切って、味噌ベースの調味料と一緒にアルミホイルで包んで蒸しあげて作ります。参加者にも確かめてもらいました。

午後は「森を楽しむく森での安全管理【野外活動での応急処置】」として応急手当指導員の細川秀彦氏から野外の危険生物、出血等のケガの応急手当の方法、担架づくり、ロープワーク等について、万が一に備えての必要な知識を学びました。



◆おわりに

本研修により、新たな「森の案内人」が誕生する事となりますが、幅広い世代から担ってもらうことにより、眺海の森における活動が更に活性化することが期待されます。今後も継続的に養成研修を実施していきたいと思えます。

〔庄内総合支庁森林整備課〕



奥羽本線舟形駅の西約900m、県道31号の脇にあるミズキの巨木を紹介します。ミズキはケヤキやカツラのように巨木となることは珍しく、環境省の巨樹・巨木林データベースで調べても全国で5本しか記載されていません。その5本の中で最大のものでも目通り幹周3.3mです。舟形町のミズキは概略測定したところ、太い幹が4.4m、細い方が2.0mでしたので、環境省のデータベースに記載されているミズキよりもはるかに大きなものです。ちなみに樹高は目測で9mくらい、枝張りは12mくらいと思われまます。写真のように素晴らしい樹形をしています。残念なことは根元に古タイヤが放置されていることです。この素晴らしいミズキの周りが整備されて多くの人に見てもらえるようになればと考えています。【山形県森林協会】

山形県の古木・名木 135

木友のミズキ

舟形町舟形木友



（案内略図）



やまがたの木造施設 98

シェルター インクルーシブプレイス コパル

（山形市南部児童遊戯施設）

山形市大字片谷地580-1

完成年度：令和3年度（令和4年3月）

延べ面積：3,205.24㎡

構造：RC造、S造（一部木造屋根）

木造の数量：242m³（山形市産材・山形県産材含む）

設計・工事監理：onishimaki + hyakudayuki/o+h

建設：高木・シェルター特定JV、Otias、石川建設産業、タカハシ電工

特徴：美しい山並みに呼応する雲のような屋根が特徴的な本施設は、「障がいの有無や、人種、言語、家庭環境に関わらず、多様な個性や背景を持った全ての子どもたちの遊びと学びの場」という基本方針を持つ、全国的にも事例の少ないインクルーシブ施設。山形市がPFI法に基づき実施する当事業は、シェルターなど10社が出資して設立した特別目的会社（SPC）「株式会社夢の公園」が15年間の運営・維持管理を行います。最大25mスパンの山形市産カラマツ集成材のアーチ梁が子ども達をあたたく包み込みます。